

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店 [酒] (店長)	販売量の動き	・今秋も無料で新型コロナウイルスワクチンの接種が始まり、新型コロナウイルスの新規感染者数も減っている。今後期待できる。
	◎	家電量販店 (営業担当)	来客数の動き	・上半期前年比90%前後だった来客数が95%前後に回復している。来客数は下げ止まりつつある。
	○	商店街 (代表者)	来客数の動き	・景気がやや良くなっているとはいっても、全体的にというよりは、部分的にという面がある。
	○	百貨店 (経営担当)	来客数の動き	・これまでコロナ禍で開催できなかった県内のイベントや祭りなどが開催されるようになったことで人流が回復しつつあり、店舗への来客数増加にもつながっている。
	○	スーパー (企画担当)	単価の動き	・今月は、秋休み需要などにより、前月に引き続き好調に推移している。酒、飲料などで値上げがあったものの、客が度重なる値上げで慣れたこともあるのか、売上は好調に推移している。
	○	コンビニ (経営者)	来客数の動き	・来客数の動きが良い。近隣のホテルの宿泊客が多く売上が順調である。
	○	一般レストラン (代表者)	来客数の動き	・団体の予約が少しずつ増えてきている。
	○	観光型ホテル (代表取締役)	来客数の動き	・宿泊について予約は堅調に入ってきている。ただ、2019年比の70%程度とまだ十分な回復ではない。料飲部門については予約が微増である。2019年比40%程度と厳しい状況が続いている。
	○	観光型ホテル (企画担当)	販売量の動き	・ホテルの7月の販売室数が前年比7%減少に対し、10月の販売室数は同比6%減少となり、マイナス幅が小さくなっている。
	○	旅行代理店 (マネージャー)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症も完全に視界に入らなくなり、旅行相談等もかなり増えてきている。
	□	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・今月は前半は余り良くなかったが、後半に入り観光客の来客数が増えている。
	□	乗用車販売店 (経理担当)	来客数の動き	・個人客については来客数が落ちている様子はない。
	□	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・新車、中古車共に販売は厳しく、毎月の販売台数に波がありすぎる。
	□	住宅販売会社 (代表取締役)	来客数の動き	・公共工事については、前年以上の受注ができていますが、投資建築案件や個人住宅などの民間工事については減少傾向が続いている。
	□	住宅販売会社 (役員)	単価の動き	・建築費の高騰に伴い、分譲マンションの価格も上昇しており販売スピードは鈍化傾向にある。
	▲	コンビニ (副店長)	販売量の動き	・3か月前とさほど来店客数の増減はないが、客単価は下落している。相次ぐ値上げ商品においては、確実に販売数が落ち込み、消費も鈍化している。
	▲	その他飲食 [居酒屋] (経営者)	お客様の様子	・観光客の入店は微増しているが、10月に入ってから平日の地元客が極端に減っている。イベントやチラシの、安い、無制限などに反応している。
▲	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・来客数は徐々に増えてきているが、販売量は前年比85%と前月よりも落ち込んでいる。話題性のある新商品が出て期待はしたが消費者の取替えサイクルが長くなっており、また、価格も上がってきていることから買い控えがあると推測する。	
×	—	—	—	—
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・お中元催事後の9～10月は例年だと消費が鈍るが、今年は業務や観光関連の消費が好調である。
	○	窯業土石業 (取締役)	受注量や販売量の動き	・8月の大型台風の影響により受注が大幅減少していたが、今月より受注が増え売上は回復傾向にある。
	○	建設業 (経営者)	それ以外	・数年前から相談を受けていたリゾートホテルや大きな開発の案件が最近になり具体的に動き出している。
	□	会計事務所 (所長)	取引先の様子	・基幹産業である観光業を中心に景気は回復基調にある。ただし、原材料費、人件費の高騰を十分にカバーできる状態には至っていないと見受けられる。
	▲	—	—	—
×	—	—	—	—

雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社 (総務担当)	周辺企業の様子	・観光客が増加したことや、個人消費が好調なことから景気は少し良くなっているとみられる。
	○	求人情報誌製作 会社 (営業)	求人数の動き	・3か月前から1割ほど増加している。9～10月はほぼ横ばいではあるものの、夏期の7～8月と比較すると増加している。
	○	学校 [専門学 校] (就職担 当)	採用者数の動き	・IT業界は慢性的な人手不足で、業務的には新たな案件が増えていることもあり、採用枠を増やしている企業が多い。まだ採用枠に達していない企業も多く、継続的に人材に関する問合せがある。
	□	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・前年比で増加傾向のあった求人数について、ここ最近では横ばい傾向に変わってきている。
	□	学校 [大学] (就職支援担 当)	それ以外	・物価高騰によって消費意欲が低下している。
	▲	—	—	—
×	—	—	—	